



撮影：Ronald Kabuubi



## ウガンダ-ケニア国境・マラバ

# 扇の要の税関刷新で 変わるアフリカ経済

世界銀行総裁補佐官 三輪佳子

**WATCH FIRE**

【開発途上国の明日】



**マ**ラバはウガンダとケニアを結ぶ主要な国境税関だ。ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、南部スーダン、そしてコンゴ民主共和国への、鉄道、道路の通過点となっている。

内陸国にとって、効率的な税関手続きは、経済の競争力向上や、地域統合を進めるうえでも要である。マラバはウガンダへの貨物輸送の半分以上を取り扱い、通過する貨物額は2008年で約25億ドルに及んだ。

しかし以前は問題が山積みだった。場所は狭くインフラは老朽化、手続きには時間がかかり、非効率で密輸にもつながっていた。

マラバをワンストップサービスができる税関にするため、07年からインフラ整備や改革をする世界銀行のプロジェクトが始まった。マラバ橋が補強され、駐車場も拡張、通関手続きのコンピュータ化や、税関職員のリトレーニングも行われた。今では当時と比べてモンバサからカンパラまでの貨物の通過時間が15日から5日、マラバでの貨物の通関手続きも3日から3時間に短縮された。

このプロジェクトはさらに、東アフリカ諸国内での関税手続きの調整、協調を進めている。共通のソフトを使った通関手続きや、貨物の追跡システムの地域レベルでの融合などを行う予定だ。サービスの効率化を誇らしげに語る税関職員の笑顔は、とても印象的だった。

